

経済・金融 フラッシュ

7月ECB政策理事会：金融政策は 現状維持。ストレステストの結果は 23日公表へ

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり
TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

欧州中央銀行(ECB)は8日に政策理事会を開催、政策金利の据え置きを決め、流動性供給についての新たな決定は見送った。経済・インフレ・リスクの判断は据え置かれ、経済の現状は「一部の投資家が考えているほど悲観的ではない」との見方が示された。

前回理事会以降、6月末に期限を迎えたカバード・ボンド買い入れプログラムは終了し、7月1日の1年物資金供給の満期日は、3カ月物、6日物の金額無制限・固定金利の資金供給で対応が図られた。

質疑応答は、足もとのインターバンク金利の上昇傾向と7月23日の公表が決まった「ストレステスト」に集中した。「ストレステスト」に関してはCEBS(欧州銀行監督者委員会)が7日公表した内容以上の詳細に踏み込まず、「資本増強が必要な場合には適切な行動がとられることを期待している」とした。

(政策金利は据え置き、流動性供給についても新たな決定はなし)

欧州中央銀行(ECB)は8日に政策理事会を開催、2009年5月から続く政策金利の据え置きを決めた。流動性供給については、前回6月に7～9月期の3カ月物資金供給を固定金利・金額無制限で行なうことを全員一致で決めており、今回は追加的な決定は行なわれなかった。

声明文では、景気は回復基調が続いており、今後も「不確実性が高い環境」ながらも、「穏やかで平坦ではない回復が続く」という見方が踏襲、物価も「穏やかな推移が続く」との見方が示された。質疑応答ではユーロ圏経済の現状は「一部の投資家が考えているほど悲観的ではない」との見方も示された。

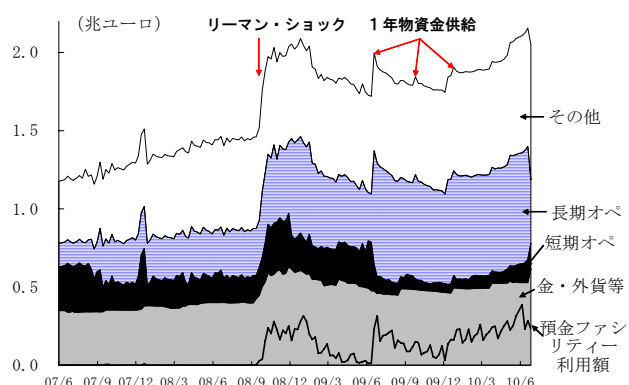
(カバード・ボンド買い入れプログラムは終了、4422億ユーロの1年物資金も償還)

前回理事会の後、6月30日には昨年7月に始動した総額600億ユーロのカバード・ボンド買い入れプログラムが期限を迎え、7月1日には昨年6月25日に実施された4422億ユーロの1年物資金供給の満期を迎えた。

うち、カバード・ボンド買い入れについては当初予定通りに完了し、買い入れた資産は満期まで保有する旨の声明文が、政策理事会に先立つ6月30日に公表されている。質疑応答で、現時点で追加買い入れの意向はないことが示された。

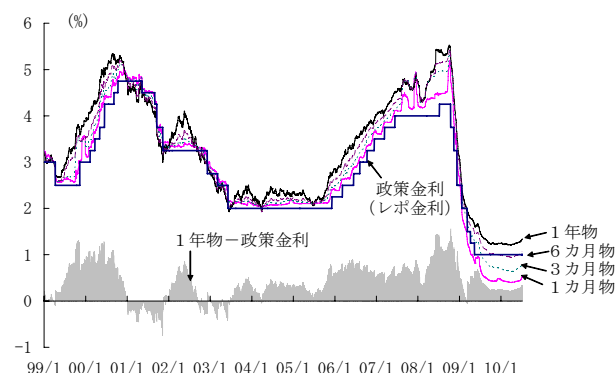
1年物資金供給の満期を迎えた7月1日には、3カ月物オペで1319億ユーロ、6日物のファインチューニング・オペで1112億ユーロが供給、さらに6日物オペの満期日の7日には2290億ユーロの資金が供給されている。結果として、資産残高は減少に転じている(図表1)。

図表1 ECBの資産残高



(資料) ONS

図表2 レポ金利とターム物金利



(資料) Datastream

(ストレストテストについて踏み込んだ発言はなし)

質疑応答は、足もとのインターバンク金利の上昇傾向(図表2)と7月23日の公表が決まった「ストレストテスト」に集中した。

うち、インターバンク金利の上昇については、金額無制限・固定金利による資金供給を継続していることから、ECBの金融政策の意図を反映するものではないとした。

ストレストテストに関しては、CEBS(欧州銀行監督者委員会)が今月7日に声明文を公表し、①対象はEUの銀行セクターの65%に相当する91行で全体と個別行の結果を今月23日に開示し、スペインの貯蓄銀行やドイツの州立銀行を含むこと、②2010年と2011年について「基本シナリオ」と「リスク・シナリオ」の2つのマクロ経済シナリオに基づいて実施すること、③EUの銀行システム全体の耐久力、各銀行のソブリン・リスクを含む信用市場と市場のショックの吸収力、公的支援への依存度について評価することを目的としているなどの概要が明らかになった。市場の関心が高い「リスク・シナリオ」の想定は、成長率は欧州委員会の予測よりも3%下回り、ソブリン・ショックは5月初のピーク時に匹敵する状況を想定することも明らかにした。

トリシェ総裁は、「ストレストテスト」について、CEBSが公表した内容以上の詳細には踏み込まなかったが、「資本増強が必要な場合には、自力での増資か、政府が用意したスキームを利用することが望ましい」とし、ギリシャ危機への対応として新設されることになった「欧州金融安定化基金(ESFS)」について、政府の決定事項としながらも、「(金融システム安定化の目的などにも)柔軟に運用されることが望ましい」との見解を示した。

なお、ECBの開示によれば、5月に開始された「証券市場プログラム」による国債などの買い入れ額は、7月2日までの累計で590億ユーロに達している。当初1週間の買い入れ額は162億ユーロに達していたが、7月2日までの1週間は37億ユーロと段階的に削減されている。今回の質疑応答でも、プログラムの詳細は明かされなかったが、「国債市場の状況はいくらか改善している」との見方が示された。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。